

周産期からの子育て支援に取り組むスタッフをつなぐ

ハロー・ファミリーカード通信



「私たちは、妊娠・出産から始まる子育てを応援します」

第5号

＜平成26年3月発行＞



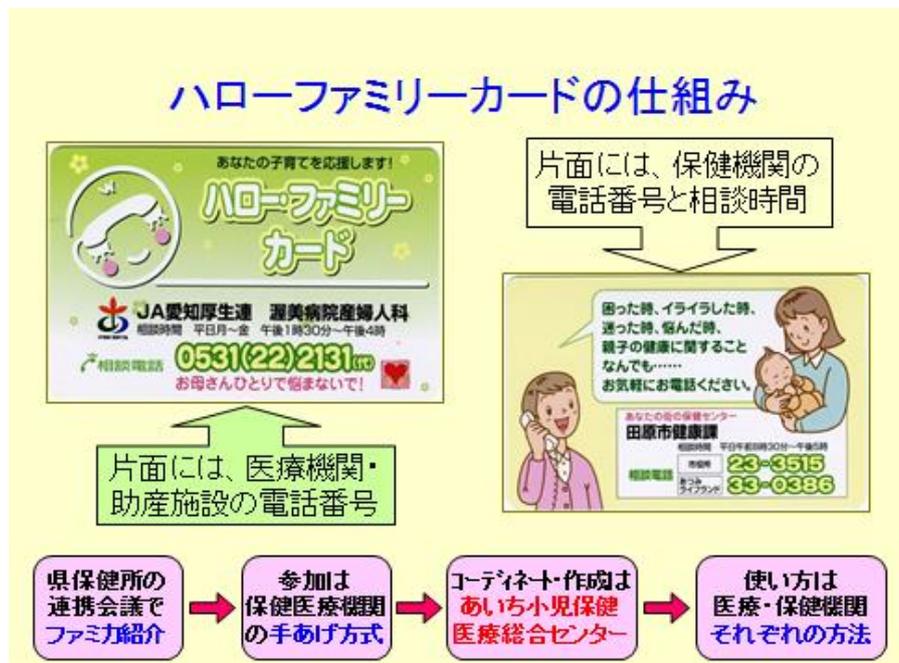
平成18年1月から始まったハローファミリーカード・プロジェクトは、今年度は新たに1機関が加わり、合わせて**100機関**（35保健機関、48医療機関、13助産機関、2母乳相談室、1歯科医療機関、1福祉機関）が参加するプロジェクトとなりました。

このプロジェクトは子育てをスタートする母に対し、医療現場と保健現場のスタッフが協働して子育て支援に取り組み、子育て不安の軽減や虐待予防を目指す取り組みです。カードは、子育て上の些細なことでも相談してよいという気持ちに母になるための**支援ツール**であり、医療機関から保健機関につなげることの同意を母から得るための**連携ツール**でもあります。出産後に気になる母親にカードを渡しながら「お母さん、ひとりで悩まないで。心配なことがあれば、ここに相談していいんだよ。」という**メッセージ**と**安心**を伝えることができます。

カードの渡し方などは、各医療機関、助産施設、保健機関のそれぞれで決めています。名刺がわりに利用しているところもあれば、独自のメッセージを入れて相談しやすくしたり、医療機関の中には院内で実施しているケア内容を記載する等して、どのような支援が受けられるのか分かりやすくするための工夫をしている所もあります。

どの母にカードを渡そうかと子育て支援での見方をするようになったとの言葉も聞きます。

今後もさらに輪を広げ、それぞれの機関で創意工夫をしながら、カードを通して子育てをする母に安心感を提供できるようにしていきたいと思います。



周産期医療現場スタッフと取り組む子育て支援に関する研修会

◆講演

「子どもに育つ力、母親に育てる力を～タッチケアの心はふれ愛～」

講師 聖マリア学院大学教授・医療福祉研究所所長

橋本 武夫氏

平成 26年1月 20日（月）に研修会を開催しました。今回は、長年、小児医療に携わる中で母乳育児の重要性を様々な機会を通じて伝えて来られ、最近では療育分野でのご活動も盛んな橋本武夫先生からご講演をしていただきました。

当日は保健機関や医療機関、保育・療育関係者など計 86 名の方々に参加していただきました。

「タッチケアの大切さを再認識した、職場で共有したい」「HUG やタッチは子どもの心のケアであることを母たちに伝えていきたい」「おっぱいは母と子の心を育てることが印象的だった」「母親教室



や育児教室で伝えていきたい内容ばかりだった」「教育より響育、育児だけでなく育自、など考えさせられる言葉をもらえた」「マニュアルにとらわれることなく支援していきたい」「仕事だけでなく1人の母として子どもを抱きしめたくなった」、など様々な感想が寄せられました。

**抱いて・語りかけて・おっぱい
HUG しよう！ 群れよう！**

Q：妊娠期からできる関わりを教えてください。

A：関わりはとても大切なことだが必要な人ほど難しい。今は母になる人だけでなく専門職にも赤ちゃんの世話をしたことがない人が多い。マニュアル通り教えるのではなく同じ立場になって一緒に悩み、喜ぶことでコミュニケーションが作られるのではないかと。今一度深くこそ考えて欲しい。

Q：バースカールケアを実施しているが、保育器に入っている場合、見守るだけで良いか、保育器の中に手を入れて触ってもよいのか？触るなどと言われることがある。

A：その時の状況による。母が触りたければ触ってもらい、それができない時はショックを与えないように配慮して下さい。

残念なことにバースカールケアに関しては今裁判になっている。これはマスコミが誤解して報道してしまったことによる。1万人に1～4人には何らかのアクシデントが起きる状況でありどこにいても起きること。バースカールケア中にたまたま起こってそれが悪いという出方になってしまった。もちろんアクシデントが起きたらきちんと対応することができる体制をとることは必要。

A：小中学校の大人になりかけの子どもたちにどのように接していくとよいのか？

Q：自閉症症状のある幼児には親がコミュニケーションをとることで変わってくる事例がある。小学校高学年から中学はおとなへの架け橋の時期。もう1回乳児期の育児に戻ってほしい。生意気なことを言う時期だがぶつかってきたら跳ね返すのではなく、手を広げ受け入れてじっくり話を聞いてあげて欲しい。子どもの心を抱きしめHUGすることで良い方向に行くのではないかと。

医療機関を訪問してお話をうかがいました。

広川レディスクリニック



今回は小児センターから程近い大府市内にある「広川レディスクリニック」を訪問し、理事の広川さんと助産師の近藤さんにお話を伺いました。こちらのクリニックは平成6年6月に開院し、今年で20周年を迎えました。20年間で生まれた赤ちゃんは14,000人を超えたそうです。助産師外来、母乳外来などママの立場に立ったケアはもちろん、バースカンガルーケア、マザークラス、マタニティヨガ、アフターピクス&ベビーピクスなど

な機会を通じて親子のふれ合い、仲間づくりの機会を作っています。

カードは平成22年から導入していて退院時に全員に渡しています。相談の電話は真夜中にかかることもあります。母乳の相談であったり、子どもが泣き止まないという相談であったり。そんな時、助産師さんが話を聞いてやさしく語りかけてくれるだけで、ママはとても落ち着くことができます。「ここで出産をしたママや家族は“ファミリー”です」と広川理事。海外に住んでいる“ファミリー”の一人は、ここが故郷だからと日本に来る度に訪れます。ここで生まれてここで出産するママもいます。



妊婦健診時から心配なママがいるとスタッフがきめ細かに寄り添い、また積極的に地域の保健師さんに連絡し、入院中に顔合わせをしてもらうようにしています。そうすることでママがスムーズに地域の支援者を受け入れることができます。育児不安のあるママが1か月検診まで毎日相談に来ることもありました。「ここでできることはしていく。でも子どもを育てていくためには次につなげていく

ことが必要」と。また、子どもは地域で育てていくことが必要との思いが、地域で手作り運動会を開催したり、集いやコンサートを開催したりと、人がつながる機会を積極的に作って来ました。そして、“NPO法人ミューぷらん・おおぶ”の立ち上げにつながっていきます。大府市との官民一体のDVシェルター・相談窓口の設置など、女性の立場に立った様々な支援活動をしています。

今回訪問して、スタッフの皆さんの生き生きとした姿が印象的でした。「すべての人は幸せになるために生まれてきた」と話された広川理事の言葉に、支援活動のすべての根幹があると納得できました。



院内からもっと大きく、もっと先を見据えた社会支援に発展していることにとっても驚きを感じました。
住民のためにも今後の更なるご活躍をお願いいたします！

妊娠届出書の問診項目をどのように活用していますか？

愛知県内では平成24年4月から県内統一様式の妊娠届出書を使用しています。その中に13項目のスクリーニング問診項目があり、ハイリスク妊婦を早期に把握できる機会になっています。

この様式になってから保健機関から医療機関、医療機関から保健機関への連絡件数がともに約倍増したとの報告もありますが、皆さんの市町村、医療機関ではどのようなことをどのように連絡していますか？折角の情報を有意義に使い、たくさんの母親の力になれるといいですね。

[あいち小児保健医療総合センターのホームページをご利用ください！](#)

◆周産期医療現場スタッフが取り組む子育て支援マニュアル

—周産期医療現場での親子支援に役立つ内容です—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/manual/kosodate/>

ユーザー名:**achemec** パスワード:**achemec** (ともに小文字で入力してください)

◆保健機関から医療機関へのPR

—愛知県内各市町村の妊娠中から乳幼児期の母子保健活動を掲載—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/Hoken/hokenkikanPR/hokenkikanpr.htm>

◆妊娠・出産・育児期に支援を必要とする家庭の地域における保健医療連携システム構築ガイドライン

—医療機関と保健機関の連携を考えるうえで必見です—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/Hoken/web/guideyanagawa.pdf>

◆愛知県乳幼児健康診査マニュアル(第9版)

—平成23年度から子育て支援の視点を取り入れた新しい健診体制になりました—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/Hoken/manual.html>



ファミカ通信編集局より

ファミカ通信は、保健や医療等の現場で多忙な毎日をご過ごしておられるスタッフの皆様に向け、あいち小児センターから発信する小さなメッセージです。

通信の中でも報告させていただきましたが、ハロー・ファミリーカードプロジェクトの輪は少しずつ広がり、とうとう100機関に到達しました。この8年の間に“子育て支援は妊娠期から”という認識が常識になったことを感じます。それぞれの機関で様々な事業や取り組みがなされている中で、このプロジェクトは小さな地道なものですが、“未来志向の現場対応”が展開できるように、今後も皆様と一緒に子どもと家族の未来をみつめた活動を続けていきたいと思っております。

皆様からのいろいろなご意見等お待ちしております。

***ファミカ通信を希望される方は必要部数をお送りしますのでご連絡下さい。**

発行 あいち小児保健医療総合センター保健センター保健室

〒474-8710 大府市森岡町尾坂田1番2号

TEL (0562) 43-0500 FAX (0562) 43-0500

URL:<http://www.achmc.pref.aichi.jp/>

E-mail:hoken_center@mx.achmc.pref.aichi.jp

